

## 木村定三コレクション (M1416) 茶入 銘八重垣について

平瀬 礼太

木村定三コレクション (M1416) の《瀬戸茶入 銘八重垣》は江戸期の大名片桐家伝来のものとされ、売り立てなどを経た後に木村定三氏が入手し、愛知県美術館に寄贈された作品である。2013年度の『愛知県美術館 研究紀要第20号 木村定三コレクション編』において長崎巖氏が「《瀬戸茶入 銘 八重垣》(江戸時代・17世紀) 付属の仕覆について」と題して茶入付属の仕覆について詳細に検討を行っている。この茶入には8つの仕覆と牙蓋が付属しており、長崎氏の分析によると使用された裂の製織年代が15世紀～17世紀であることが判明した。

茶入自体については片桐石州が愛用して茶席に頻繁に使用しながらも、長らく行方不明であったことから、一部では幻の茶入と称されていた。この報告では、この茶入れが辿った経緯を分かる範囲で記したいと思う。

### 片桐石州と「八重垣」

《瀬戸茶入 銘八重垣》は茶人・片桐石州の許に所蔵されていたものと言われている。石州は1605(慶長10)年摂津茨木(大阪府茨木市)に片桐貞隆の子、片桐且元の甥として生まれた。父・貞隆は豊臣秀吉に仕え、播州、伊勢、美濃などに領地を得ていたが、1623(元和9)年に大和小泉(奈良県大和郡山市小泉)に移った。既に1617(元和3)年に江戸城で御目見えを済ませていた片桐鶴千代貞昌(石州)は、1624(寛永1)年に石見守という官位を授かるが、石州の名はこの官位に由来している。1627(寛永4)年に父・貞隆が死去し、貞昌が大和小泉藩の藩主となった。茶の湯は、千道安に学んだ桑山宗仙に入門したというが、1632(寛永9)年に宗仙は亡くなっているため、師事の期間はそれ程長くなかったと考えられる。1633(寛永10)年には京都・知恩院が炎上したことを受けて再興の作事奉行に任ぜられている。将軍の茶道師範を務めた小堀遠州と同様、石州も造営や普請の業務に力を発揮した。そして知恩院再興に携わった1641(寛永18)年までの間は京都で茶の湯の研鑽を積む好機となっていた。この頃では遠州などの茶会に招かれることもあれば、自ら茶会を開くこともあり、茶人としての交流は盛んとなっていた。

石州は1644(寛永21・正保1)年以降江戸で頻繁に茶会を催すことになるが、その頃から度々使用された茶入が「八重垣」である。『片桐宗閔公御会席之留』(八尾嘉男「片桐石州自会記」『茶の湯文化学』9号 2004年所収)掲載の1644(寛永21)年2月16日晚の茶会(主客は松平和泉守乗寿)において「八重垣」が使用されているが、現在残っている記録では

これが最初の登場となる。同年には少なくとも5度の使用が認められるため、石州がこの茶入を気に入っていたことがうかがえる。

どのような経緯で「八重垣」と名付けられた茶入が石州の所蔵となったのかは、石州が父の菩提寺として1663（寛文3）年に建立した臨済宗大徳寺派の慈光院（奈良県大和郡山市）に伝来する資料に記述があるので下に紹介する。

「御茶器類御風入有之作表拝写之者也

一、八重垣の御茶入の由来無きよし、数寄の道具というは、茶入を云由、然るに大和国立田御惣領片桐市正様御所領なり。御二代出雲守様御在世の頃に也。石見守様奥へ、所存入長局通らせ給うに仕し女の水油を入れて置たと見へて、壺ありしを給。凡、宗関様御覧有遣れ給う。其後立田の御家の御用也。聞し市人を召され御覧ありし壺御懇望し上被候故、價として黄金五両、よき壺所持したる婦人へ遣して、其方壺を所望して成させよと仰給付ければ、市人畏りて、五両を婦人に遣して壺をもらいて、壺持参して差上げ候半と申候へ共、其方へ持参り壺を土中に埋置候へ望て受んと仰出され、其俣久敷市人御預り居し候に、年を経て彼壺を持参せよとありけるに、早速持参しければ、壺の價として、黄金三百両、市人何某へより壺を御取上げ候と成て、八重垣と名を付け給い、御在世御秘蔵の御茶入に成ける。都ての、道具價三百金なれば千両道具というよし。又、御功者御見立へ来候。御用いの品、昔より名物と成たる類多し様の上品には其鉢をよりけると云。左に御替袋等事記之。」

（若泉絃月氏翻刻）

記された時期も筆者も不明なこの資料を見る限りでは、石州に仕えていた女性が髪油を入れていた壺を「八重垣」と名付けて重宝したということになる。前述のように1644（寛永21・正保1）年から「八重垣」が茶会で使われ、亡くなる前年の1672（寛文12）年の茶会まで使用されている。茶人・片桐石州として、生涯を共にした茶入の1つと呼んでも過言はないであろう。「八重垣」によってどのような客をもてなしたのかは次表で示しているが、主客には多数の藩主が名を連ねている。小堀遠州の跡を継ぐ形で大名茶人として名を馳せ、1665（寛文5）年には4代将軍家綱の茶道師範ともなった石州の面目躍如たるものがある。客は藩主やその関係者、家老、医師、茶人などが多数を占めるが、能楽師や商人も含まれている。老中の松平乗寿、阿部忠秋、後に大老となり、下馬将軍とも称されて権勢を奮う酒井忠清、家康の孫の会津藩主保科正之というような大物大名も主客となった。客の組み合わせの意味を考察する事は浅学の筆者の能力を超えているが、これらの茶会が他では得られぬ濃密なコミュニケーションの場となったことは想像できる。

石州は柳営（幕府、将軍などの意）茶道の規格を定め、多くの大名を門葉にもった。その茶の湯の特徴は大名茶と侘び茶の融合したさびを強く打ち出したものと言われる。「天然と侘びたる姿を生れ得たる」「人作の及ばぬ」数寄の本意を見出すことこそ茶の湯であり、「心を楽しむ数寄者こそ誠の数寄者とは云ふべけれ」とする石州には大和小泉藩家老の藤

林宗源をはじめ、松浦鎮信（平戸藩主）、清水動閑（仙台藩茶頭）、野村休盛などが教えを受け、松平不昧、井伊直弼などもその流れを汲んでいる。上記のような「天然と侘びたる姿を生れ得たる」「人作の及ばぬ」数寄の本意を、石州が「八重垣」に見出したからこそ、頻繁に茶会で使用されることとなったのであろう。

## 「八重垣」のその後

（表1）に記した通り、「八重垣」は寛永21（1644）年～寛文12（1672）年の間の石州の茶会記に30回の使用記録がある。仕覆8種は長崎氏の論考や茶会記の記述を考え合わせると、石州が茶会で使用していた頃に既に存在していたものと考えられる。1644年～45年の茶会記（『片桐宗関公御会席之留』）に「金雲」「純子小遠」「純子」、1672年の茶会記に「金雲」「桑佐」の記述がある。また、同時に牙蓋の記述もあり、「桑佐」「自作」「金雲」とある。

前記の長崎氏の論考によると、石州の弟子の清水道倫門下の山角四郎右衛門が「八重垣」を見た時の記録を、上村為三が1785（天明5）年に清水道簡門下の仙石次左衛門から借用し、書き写したものに、「片桐石見守貞昌侯、御秘蔵、八重垣御茶入、御袋、蓋、八通左に記」とあるという。仕覆については

古今欄一重ツル地むらさき牡丹 スガリ 花色  
古銀欄萌黄 スガリ 紫  
伊予簾 スガリ むらさき  
鷗間道 スガリ むらさき  
銀欄 模様 如此 金らんの作と拝見へ申候 スガリ むらさき  
間道 スガリ むらさき  
縞間道 スガリ 濃浅黄  
より金是ハ目利ノ上にてはあしく スガリ 茶

と記されており、1785年において仕覆が総て揃っていたことがわかる。

片桐石州が亡くなったのは1673（延宝1）年であるが、前年に使用されて以降の「八重垣」がどうなったのかは長らく不明で、一部からは「幻の茶入」とされていたようだ。片桐家に残されたのか、もしくは他の所蔵となったのかも不明であったが、前記の1785（天明5）年の記録があることから、その頃には片桐家の周辺には所在していたことが想像できる。

非常に興味深いのは、「八重垣」の写しの存在である。現在2点の写しを確認されており、慈光院（写真p.15）と、京都大徳寺芳春院の所蔵となっている。大徳寺芳春院所蔵の茶入は大徳寺四百十八世の住持宙宝松月（1838年没）による箱書から、大和小泉藩第8代藩主片桐貞信（1802-48 1822-41の間は藩主）の代に11代満田道志（1824年没）に作らせた乾漆による写しということである。それぞれの生没年等を考慮すると、1822年から24年の

間に作られたということになるが、実際はどのようなのであろうか。写し作成の理由は不明である。

本家のほうに戻ると、「八重垣」自体の箱書などの付属資料からは、明治期に片桐家の当主片桐貞健（1881-1892?）から松浦家当主の松浦心月（詮 あきら 1840-1908）に譲られたことがわかる。

※仕覆外箱蓋裏記述

「片桐宗関先師 遺愛之名壺 有故末孫貞健子より譲受心月宅最上之愛器とす 花押」

心月は平戸藩最後の藩主であり、石州の流れを汲む鎮信流茶道の継承者でもある。記述が正しいとすれば、片桐貞健が子爵であったのは、1884年から亡くなる1892年までであり、その間に片桐家から松浦家に渡っていたと考えられる。そして、実際に松浦家に所蔵されていたことを証明するのが、安田善次郎『松翁茶会記』<sup>1</sup>である。1894（明治27）年正月に松浦心月がこの茶入を使用したことがこの茶会記に記されている。仕覆は伊予簾であった。

その後1934（昭和9）年11月5日の東京美術倶楽部における「松浦伯爵家並某家蔵器展観入札」に出品されている。落札価格は1799円であった。仕覆について、目録では「伊豫簾、東山金襴、古銀襴、金モール、権太夫、上代縞、紫地金襴、古代段織」とある。そしてさらに1941（昭和16）年11月25日の名古屋美術倶楽部における「某家所蔵品入札」に出品されている。この某家とは諸戸家、八木家のことであり、落札したのは「長谷川 百勝」、すなわち、美術商の長谷川長宜堂と百勝こと本美勝であった。落札価格は2390円である。その翌年の1942（昭和17）年に木村定三氏が古美術商を通じて入手（木村氏による記録では「1942年、諸戸入札、勝 古瀬戸茶入 銘八重柿 石州箱」とあるので百勝から求めたのであろうか）し、2003（平成15）年に寄贈されて愛知県美術館のコレクションになった、というのが、「八重垣」の所有者の変遷である。

石州の没後、明治期まで片桐家が所蔵し続けていたのかどうか定かではなく、推測に過ぎないのではあるが、1785年の記録、1820年代の写しの作成、そして明治期に片桐家当主より松浦家へ譲渡されたことを考え合せると、石州流茶道の祖である片桐石州秘蔵の品を片桐家が代々引き継いでいた可能性が高いであろうか。いずれにせよ、興味深い経緯をもった、興味深い茶入であることに変わりはないであろう。

註

1 『松翁茶会記』1927年、国立国会図書館蔵を参照した。神津朝夫氏の指摘による。

※本報告の作成にあたり、下記の皆様にご協力、ご助言いただきました。ここに記して感謝の意を表します（敬称略：50音順）。

奥田晶子  
神津朝夫  
慈光院  
大徳寺芳春院  
前田壽仙堂  
松原龍一  
若泉紘月

- ・次表は茶の湯文化学会発行 会誌『茶の湯文化学』第9号掲載の「資料：片桐石州自会記／八尾嘉男」に基づき作成した。
  - ・上記史料は石州が催した茶会を記録した6つの自会記史料を翻刻した労作である。
  - ・各史料にはAからFの記号が与えられており、次表でも出典としてその記号を使用した。
    - A：『片桐宗閔公御会之留』（大阪府立中之島図書館所蔵『旁求茶会記』所収）
    - B：『石州会の留』（国立国会図書館所蔵茶道叢書所収）
    - C：『承應萬治宗閔公御客御飾付之留』（慶応義塾大学図書館籌庵文庫所蔵）
    - D：『石州會席留』（国立国会図書館所蔵茶道叢書所収『諸家会席記』第4冊所収）
    - E：『宗閔公御會道具附』（慶応義塾大学図書館籌庵文庫所蔵）
    - F：『片桐石州會之留』（国立国会図書館所蔵茶道叢書所収『諸家会席記』第4冊所収）
- なお、D、Eにおいては「八重垣」の使用は見受けられない。  
またすでに翻刻されている史料として『茶道石州會留書』（『全集茶道』11巻所収 創元社1937年）があり、①とした。
- ・次表の人物の特定は、『寛政重修諸家譜』（続群書類従完成会刊）の記述を主とし、記載されていない人物については他の資料によった。
  - ・次表は高木久子が編集した。



# 《八重垣》使用茶会表

日付	西曆	場所	客(主客):	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	仕置・蓋	出典
1	寛永21: 2月16日	小泉藩 江戸屋敷	松平和孫 守殿	大久保宗三郎殿 大久保教勝(1638-2) 旗本。 大久保忠房(1605-73) 旗本。 大久保忠房(1605-73) 旗本。 大久保忠房(1605-73) 旗本。 大久保忠房(1605-73) 旗本。	大久保忠明(1632-1712) 旗本。 大久保忠明(1632-1712) 旗本。 大久保忠明(1632-1712) 旗本。 大久保忠明(1632-1712) 旗本。 大久保忠明(1632-1712) 旗本。	溝口又十郎殿 正室は大久保教勝の娘。			袋雲・蓋 蓋茶左	A
2	寛永21: 4月21日	小泉藩 江戸屋敷	板倉主水 殿	板倉重直(1617-73) 上野守殿。 板倉重直(1617-73) 上野守殿。 板倉重直(1617-73) 上野守殿。 板倉重直(1617-73) 上野守殿。 板倉重直(1617-73) 上野守殿。	八木守直(宗直とも) 旗本。 八木守直(宗直とも) 旗本。 八木守直(宗直とも) 旗本。 八木守直(宗直とも) 旗本。 八木守直(宗直とも) 旗本。				袋純子小 遠・蓋茶左	A
3	寛永21: 10月26日	小泉藩 江戸屋敷	阿部豊後 守殿	安藤石次郎殿 安藤重長(1600-57) 上野守殿。 安藤重長(1600-57) 上野守殿。 安藤重長(1600-57) 上野守殿。 安藤重長(1600-57) 上野守殿。 安藤重長(1600-57) 上野守殿。	安藤治(安藤正珍(1604-46) 旗本。 安藤治(安藤正珍(1604-46) 旗本。 安藤治(安藤正珍(1604-46) 旗本。 安藤治(安藤正珍(1604-46) 旗本。 安藤治(安藤正珍(1604-46) 旗本。	道隆老 池田道隆(1585-1648) 旗本。 池田道隆(1585-1648) 旗本。 池田道隆(1585-1648) 旗本。 池田道隆(1585-1648) 旗本。 池田道隆(1585-1648) 旗本。			袋純子・ 蓋目作	A
4	寛永21: 10月26日	小泉藩 江戸屋敷	酒井河内 守殿	酒井忠勝(1624-81) 老中。 酒井忠勝(1624-81) 老中。 酒井忠勝(1624-81) 老中。 酒井忠勝(1624-81) 老中。 酒井忠勝(1624-81) 老中。	酒井忠勝(1624-81) 老中。 酒井忠勝(1624-81) 老中。 酒井忠勝(1624-81) 老中。 酒井忠勝(1624-81) 老中。 酒井忠勝(1624-81) 老中。	道隆老 池田道隆(1585-1648) 旗本。 池田道隆(1585-1648) 旗本。 池田道隆(1585-1648) 旗本。 池田道隆(1585-1648) 旗本。			蓋・袋前 におなじ	A
5	寛永21: 11月20日	小泉藩 江戸屋敷	小泉藩 大輔殿	宮城盛綱(1605-50) 旗本。 宮城盛綱(1605-50) 旗本。 宮城盛綱(1605-50) 旗本。 宮城盛綱(1605-50) 旗本。 宮城盛綱(1605-50) 旗本。	宮城盛綱(1605-50) 旗本。 宮城盛綱(1605-50) 旗本。 宮城盛綱(1605-50) 旗本。 宮城盛綱(1605-50) 旗本。 宮城盛綱(1605-50) 旗本。				蓋目作	A
6	正保2: 正月19日	小泉藩 江戸屋敷	片桐半之 守殿	片桐元(1611-54) 片桐助殿。 片桐元(1611-54) 片桐助殿。 片桐元(1611-54) 片桐助殿。 片桐元(1611-54) 片桐助殿。 片桐元(1611-54) 片桐助殿。	片桐元(1611-54) 片桐助殿。 片桐元(1611-54) 片桐助殿。 片桐元(1611-54) 片桐助殿。 片桐元(1611-54) 片桐助殿。 片桐元(1611-54) 片桐助殿。				蓋目作	A
7	正保2: 正月21日	小泉藩 江戸屋敷	片桐半之 守殿	片桐元(1611-54) 片桐助殿。 片桐元(1611-54) 片桐助殿。 片桐元(1611-54) 片桐助殿。 片桐元(1611-54) 片桐助殿。 片桐元(1611-54) 片桐助殿。	片桐元(1611-54) 片桐助殿。 片桐元(1611-54) 片桐助殿。 片桐元(1611-54) 片桐助殿。 片桐元(1611-54) 片桐助殿。 片桐元(1611-54) 片桐助殿。				蓋・袋前	A
8	承応2: 梅月26日	江戸	武田道安 殿	武田道安(1591-1675) 旗本。 武田道安(1591-1675) 旗本。 武田道安(1591-1675) 旗本。 武田道安(1591-1675) 旗本。 武田道安(1591-1675) 旗本。	武田道安(1591-1675) 旗本。 武田道安(1591-1675) 旗本。 武田道安(1591-1675) 旗本。 武田道安(1591-1675) 旗本。 武田道安(1591-1675) 旗本。				蓋	A
9	承応3: 正月7日	江戸	安藤主税 助殿	安藤主税(1605-50) 旗本。 安藤主税(1605-50) 旗本。 安藤主税(1605-50) 旗本。 安藤主税(1605-50) 旗本。 安藤主税(1605-50) 旗本。	安藤主税(1605-50) 旗本。 安藤主税(1605-50) 旗本。 安藤主税(1605-50) 旗本。 安藤主税(1605-50) 旗本。 安藤主税(1605-50) 旗本。				袋純子 蓋目作	B, C
10	承応3: 正月29日	江戸	松平式部 殿	松平式部(1605-65) 旗本。 松平式部(1605-65) 旗本。 松平式部(1605-65) 旗本。 松平式部(1605-65) 旗本。 松平式部(1605-65) 旗本。	松平式部(1605-65) 旗本。 松平式部(1605-65) 旗本。 松平式部(1605-65) 旗本。 松平式部(1605-65) 旗本。 松平式部(1605-65) 旗本。				光甫	B, C
11	承応3: 2月5日	江戸	岡野権左 衛門殿	岡野権左(1600-63) 旗本。 岡野権左(1600-63) 旗本。 岡野権左(1600-63) 旗本。 岡野権左(1600-63) 旗本。 岡野権左(1600-63) 旗本。	岡野権左(1600-63) 旗本。 岡野権左(1600-63) 旗本。 岡野権左(1600-63) 旗本。 岡野権左(1600-63) 旗本。 岡野権左(1600-63) 旗本。				岡野成恒(?-1692) 旗本。 岡野成恒(?-1692) 旗本。 岡野成恒(?-1692) 旗本。 岡野成恒(?-1692) 旗本。 岡野成恒(?-1692) 旗本。	B, C
12	承応3: 3月7日	江戸	大藏左衛門 衛門	大藏左衛門(1605-65) 旗本。 大藏左衛門(1605-65) 旗本。 大藏左衛門(1605-65) 旗本。 大藏左衛門(1605-65) 旗本。 大藏左衛門(1605-65) 旗本。	大藏左衛門(1605-65) 旗本。 大藏左衛門(1605-65) 旗本。 大藏左衛門(1605-65) 旗本。 大藏左衛門(1605-65) 旗本。 大藏左衛門(1605-65) 旗本。				春藤彦六; (B) によ る。Cは 春藤彦六 5世。	B, C
13	承応3: 3月9日	江戸	松平安玄 守殿	松平安玄(1617-93) 安玄 兵衛殿。 松平安玄(1617-93) 安玄 兵衛殿。 松平安玄(1617-93) 安玄 兵衛殿。 松平安玄(1617-93) 安玄 兵衛殿。	松平安玄(1617-93) 安玄 兵衛殿。 松平安玄(1617-93) 安玄 兵衛殿。 松平安玄(1617-93) 安玄 兵衛殿。 松平安玄(1617-93) 安玄 兵衛殿。					B, C
14	承応3: 3月10日	江戸	成瀬主計 殿	成瀬主計(1605-60) 常陸 守殿。 成瀬主計(1605-60) 常陸 守殿。 成瀬主計(1605-60) 常陸 守殿。 成瀬主計(1605-60) 常陸 守殿。	成瀬主計(1605-60) 常陸 守殿。 成瀬主計(1605-60) 常陸 守殿。 成瀬主計(1605-60) 常陸 守殿。 成瀬主計(1605-60) 常陸 守殿。					B, C
15	承応3: 3月13日	江戸	朽木民部 少輔殿	朽木民部(1605-60) 常陸 守殿。 朽木民部(1605-60) 常陸 守殿。 朽木民部(1605-60) 常陸 守殿。 朽木民部(1605-60) 常陸 守殿。	朽木民部(1605-60) 常陸 守殿。 朽木民部(1605-60) 常陸 守殿。 朽木民部(1605-60) 常陸 守殿。 朽木民部(1605-60) 常陸 守殿。					B, C
16	承応3: 3月14日	江戸	本多内記 殿	本多内記(1614-71) 大相 殿。 本多内記(1614-71) 大相 殿。 本多内記(1614-71) 大相 殿。 本多内記(1614-71) 大相 殿。	本多内記(1614-71) 大相 殿。 本多内記(1614-71) 大相 殿。 本多内記(1614-71) 大相 殿。 本多内記(1614-71) 大相 殿。					B, C

17	承応3	3月12日	卯(B)による。 Cは3/16朝	江戸	荒尾忠雄(1592-1669)鳥取藩家老。 野々山(1591-1675)江戸前田宗左衛門守。人。京の兵衛。小堀遠州に奉を師事する。 馬場三郎。馬場利重(?-1657)旗本。左衛門尉。寛永15年、長崎奉行となる。 永井高征(1614-73)後、大天狗。山城守藩主。丹後吉津藩主。は(充)殿。	荒尾宣就(1620-83)鳥取藩家老。 神保三郎。神保重利(?-1658)駿河兵衛殿。 内藤正之丞(C)内藤正吉(?-1689)旗本。は(充)殿。	本庄(B)による。 Cは山。木)宗家。			B, C
18	承応3	3月18日	朝	江戸	野々山。野々山春綱(1591-1667)(C)による。旗本。寛永17年、長崎に渡る。Bは、采した阿蘭地のキリスト教野山)丹。従を誅戮する。 後守殿。	内藤新五郎。内藤正重(1578-1663)旗本。この半、子に家督を譲る。 井門治助。左衛門尉。井門次郎左衛門外。肥後熊左衛門。本字上藩家老。上水道を築。井川二郎。備。左衛門。	荒尾忠雄(1592-1669)鳥取藩家老。 野々山(1591-1675)江戸前田宗左衛門守。人。京の兵衛。小堀遠州に奉を師事する。			B, C
19	承応3	3月19日	朝	江戸	石河野政(1577-1659)。寛永18年石河川石河(いじこ)と改姓。石州の父片桐貞隆と相父片桐且元との間子が深い。 小笠原石。小笠原忠貞(1596-1667)近大夫殿。豊前小倉藩主。	内藤新五郎。内藤正重(1578-1663)旗本。この半、子に家督を譲る。 井門治助。左衛門尉。井門次郎左衛門外。肥後熊左衛門。本字上藩家老。上水道を築。井川二郎。備。左衛門。	内藤新五郎。内藤正重(1578-1663)旗本。この半、子に家督を譲る。 井門治助。左衛門尉。井門次郎左衛門外。肥後熊左衛門。本字上藩家老。上水道を築。井川二郎。備。左衛門。			B, C
20	承応3	3月19日	晩	江戸	石河野政(1577-1659)。寛永18年石河川石河(いじこ)と改姓。石州の父片桐貞隆と相父片桐且元との間子が深い。 小笠原石。小笠原忠貞(1596-1667)近大夫殿。豊前小倉藩主。	岸本宗徳。	藤主(C)は(充)殿。女			B, C
21	承応3	3月21日	晩	江戸	石河野政(1577-1659)。寛永18年石河川石河(いじこ)と改姓。石州の父片桐貞隆と相父片桐且元との間子が深い。 小笠原石。小笠原忠貞(1596-1667)近大夫殿。豊前小倉藩主。	高橋玄室。	片桐新五郎。片桐之晴(1638-1706)片桐石州の甥。は(充)殿。			B, C
22	承応3	3月23日	晩	江戸	石河野政(1577-1659)。寛永18年石河川石河(いじこ)と改姓。石州の父片桐貞隆と相父片桐且元との間子が深い。 小笠原石。小笠原忠貞(1596-1667)近大夫殿。豊前小倉藩主。	田中主殿。田中吉官(1600-1593とも)1658)旗本。	伊丹藏人。伊丹殿。			B, C
23	承応3	3月25日	晩	江戸	石河野政(1577-1659)。寛永18年石河川石河(いじこ)と改姓。石州の父片桐貞隆と相父片桐且元との間子が深い。 小笠原石。小笠原忠貞(1596-1667)近大夫殿。豊前小倉藩主。	保科正之(1611-72)陸奥会津藩主。2代将軍秀忠の子。	坪内豊。坪内定房(1587-1664)旗本。Bは、妻は田中吉官の姉妹。は(充)殿。			B, C
24	承応3	3月27日	朝	江戸	石河野政(1577-1659)。寛永18年石河川石河(いじこ)と改姓。石州の父片桐貞隆と相父片桐且元との間子が深い。 小笠原石。小笠原忠貞(1596-1667)近大夫殿。豊前小倉藩主。	久松清左。伊予松山藩家老。	遠安法印。医師。武田道安と同じ。			B, C
25	承応3	3月27日	晩	江戸	石河野政(1577-1659)。寛永18年石河川石河(いじこ)と改姓。石州の父片桐貞隆と相父片桐且元との間子が深い。 小笠原石。小笠原忠貞(1596-1667)近大夫殿。豊前小倉藩主。	伊予松山藩家老。	坪内豊。坪内定房(1587-1664)旗本。Bは、妻は田中吉官の姉妹。は(充)殿。			B, C
26	承応3	3月30日	朝	江戸	石河野政(1577-1659)。寛永18年石河川石河(いじこ)と改姓。石州の父片桐貞隆と相父片桐且元との間子が深い。 小笠原石。小笠原忠貞(1596-1667)近大夫殿。豊前小倉藩主。	花房殿。花房殿。	徳勢小十郎。徳勢殿。			C
27	万治3	正月26日		江戸	石河野政(1577-1659)。寛永18年石河川石河(いじこ)と改姓。石州の父片桐貞隆と相父片桐且元との間子が深い。 小笠原石。小笠原忠貞(1596-1667)近大夫殿。豊前小倉藩主。	本多貞馬。本多忠将(1626-92)旗本。後、周防守。	高力喜兵衛。高力喜兵衛。			C
28	寛文12	4月5日	晩	江戸	石河野政(1577-1659)。寛永18年石河川石河(いじこ)と改姓。石州の父片桐貞隆と相父片桐且元との間子が深い。 小笠原石。小笠原忠貞(1596-1667)近大夫殿。豊前小倉藩主。	酒井日向。酒井忠能(1628-1705)大東寺。老藩井忠清の弟。	笠原表吉。笠原正明(1622-1702)医(故)殿。脚			F
29	寛文12	7月20日	晩	江戸	石河野政(1577-1659)。寛永18年石河川石河(いじこ)と改姓。石州の父片桐貞隆と相父片桐且元との間子が深い。 小笠原石。小笠原忠貞(1596-1667)近大夫殿。豊前小倉藩主。	大東了知。大東了知。	嶋田守庵。			F
30	寛文12	9月19日(寛)	寛(下に)による。①は9月19日(寛)	江戸	石河野政(1577-1659)。寛永18年石河川石河(いじこ)と改姓。石州の父片桐貞隆と相父片桐且元との間子が深い。 小笠原石。小笠原忠貞(1596-1667)近大夫殿。豊前小倉藩主。	稲葉勝之助。野幸長(1617-1701)旗本。明。野幸長(1617-1701)旗本。野幸長の兄、野幸和の養子となる。	町野左門。町野幸重。旗本。妻は稲葉正休の姉妹。は(充)殿。			① F F

茶入 銘八重垣 (M1416)

(本文pp. 74-81)



《瀬戸茶入 銘八重垣》M1416



満田道志《乾漆肩衝茶入》慈光院蔵 (写真提供：慈光院)